

第61回 新潟県中越教育美術展 審査員

千葉大学

准教授 佐藤 真帆



第61回 新潟県中越教育美術展の開催、おめでとうございます。長い歴史を持つ本展覧会の審査会に参加する機会をいただき、大変光栄に感じております。これまで本展覧会を支えてこられた皆様に、敬意と感謝の気持ちをお伝えいたします。

私は、特別支援学級・学校、小学校3、4年生の作品の二次審査を担当させていただきました。私が審査するのは目の前にある作品だけなので、判断に迷った時には（何もないのに！）つい作品の裏を見てしまいました。判断に迷う度に、しっかり作品と向き合うようにと自分に言い聞かせ、審査に臨みました。子どもの美術作品の審査では、子ども時代にしか生まれない表現や思いを大切に評価していきませんが、実際には大人の作品を見ると大きく変わらない視点で見ている部分もあるように感じます。だからこそ、子どもの作品に「私が思う子どもらしさ」を重ねてしまわないよう心がけ、審査を通して一つ一つの作品に出会うことを大切にしました。今回選ばれた作品はいずれも、子どもの表現の深さや多様性への理解を広げてくれるものだと思います。これらの作品が、多くの人へ届くことを願っています。

美術展に出品された作品の主題やモチーフには、子どもたちの日々の生活体験に根ざしたものが多く見られました。なかでも特別賞に選定された作品からは、作者独自の視点に加え、指導者との対話の積み重ねが感じられました。特別支援学級・学校、3年生の作品には、友達との活動を描いたものが多く、勢